生涯学習課 NEWSLETTER

福島県文化スポーツ局　生涯学習課
TEL：024－521－7784　FAX：024－521－5677
MAIL：shougaigakushuu@pref.fukushima.lg.jp
No.15　R6.3.31

ニューズレターの概要

このニューズレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復興・再生や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをささえる、いかす、ひろげる、つなげる」ため、発行しています。

皆様方からも、多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。

郡山子ども語り部講座「はやまっ子」

郡山市立中央公民館では、年間を通して、子ども語り部講座「はやまっ子」を開催し、郡山の子どもたち向けに、郡山の伝統や昔語りを語り継ぐ活動に取り組んでいる。

今回は、講師の品竹悦子氏に語り部活動を行うことになったきっかけや、語り継ぐことへの思い、「はやまっ子」の魅力について、話を伺った。

講師　品竹悦子氏

受け継いできた地域の伝統や昔語りを後世へつなげるのが役目

品竹さんは、西会津の生まれで、幼少期から地域に伝承されたものに触れて、地域の習わしや祖先に対する思いを大切にしながら育ってきた。

結婚を機に郡山市に住むようになり、自分がそうであったように、郡山の子どもたちにも、昔話、伝説、世間話に触れてもらい、「大切な何かを感じてほしい。」という思いから23年間子ども語り部活動を続けている。

当初は、親子二人で始めた語り部活動が、次第に様々なイベントに声を掛けてもらうようになり、ふくしま未来博「からくり民話茶屋」の責任者だった方から「これからも子どもの語りと向き合い、次世代の為に尽くすのがあなたの役目。」と言われたことが後押しとなった。その後、地域の方の理解に支えられ、さらに公民館の事業としても採用いただきながら、郡山子ども語り部講座「はやまっ子」の活動を続けることができていると話してくれた。

地域に愛着心と誇りを

はやまっ子では、郡山の様々な伝統を体験する活動を取り入れながら語り部講座を行っている。

例えば、伝統を後世につなげるために、民俗芸能団体を呼び、踊りを実演してもらい、子どもたちにも踊ってもらう。子どもたちは「体験」することにより、伝統の楽しさや面白みに気づき、愛着心をもって触れてくれるようになる。

「昔話の語りも、子どもたちが聞いて終わりではなく、子ども自らが話すことで、次は自分が語り継いでいきたいという思いを育み、それが次の世代につながっていく。」と、微笑みながら話してくれた。

そして、参加した子どもたちから、「郡山に生まれてよかった。」と感想をもらった時、地域の歴史や伝統を体験することの大切さを改めて感じたと話してくれた。

地域の伝統や昔語りで、福島の子どもたちを育てたい

子どもたちは新たな知識を、スポンジのように吸収し常に全力で挑む。

講座では、子どもたちが語りを行う時、テキストを丸暗記せず、自分の言葉と声で伝える大切さを教える。

地域が一体となった子どもの育成は、若い世代の「生きる力」を育む学びの推進の基本であり、子どもたちは、発表の機会を通して新たなことへの挑戦を経験し、次の学びへの意欲向上につながる。

品竹さんは、郡山の伝統や昔語りを通して、子どもたちに、自分で気づき・考え・行動する「生きる力」を身につけさせることが、大人の役割だと話してくれた。

昔語りで使用する紙芝居

今後は、郡山だけではなく、県内の子ども達が集まり、各地の昔語りに触れて、お互いが高め合える「語り部祭」を行いたいと語ってくれた。

生涯学習課　NEWSLETTER

憩いの場を提供したい
福島県立ふたば未来学園 cafeふぅ

ふたば未来学園の校内にある「ｃａｆｅふぅ」。

２０１９年６月に飲食店営業許可を取得してオープン。経営・運営は生徒たち主体で行っている。

たんぽぽの綿毛が「ふぅ」っと、遠くまで飛ぶように、私たちの思いも未来に羽ばたき、カフェに訪れた人が「ふぅ」っと、一息つけるような居場所にとの思いが名前には込められている。

今回「ｃａｆｅふぅ」で活動している生徒や顧問の先生に、運営方針や活動目的について話を伺った。

ｃａｆｅふぅのスタッフの皆さん

地域の人たちと積極的な交流を

ｃａｆｅふぅは、学園内に設営され、生徒や地域住民が利用できるカフェである。きっかけは、地域の方の、学校を拠点とした交流の場が欲しいという願いに応える形で始まり、現在では、ふたば未来学園の社会起業部カフェチームに所属している生徒10名が主体となって運営を行っている。一見、学校関係者以外は訪れにくいと思われるが、老若男女問わず交流できる場として、多くの地域住民が利用している。部長の菅波さん（高校２年）と副部長の生田目さん（高校１年）は「ｃａｆｅふぅで、様々な年代の人たちが交流することで、震災前と震災後の暮らしや地域の様子について、様々なことを受け継ぐことができる。これからもそうなれば嬉しい。」と話してくれた。地域住民同士が関わる機会が多くないからこそ、地域住民のニーズに応え、リラックスできる場を提供していきたいという思いがある。

経営も運営も全て生徒で

ｃａｆｅふぅは、『一般社団法人たんぽぽ』という会社に所属し、生徒たちが理事や社員として、主に月・水・金の11時から17時30分に営業している。平日営業のため、生徒が活動できない時間帯は、地域住民の方々を雇用し、営業を行っている。菅波さんは、「経営を行うのはとても大変で、売り上げが足りなければ、運営も、従業員の雇用もできない。課題はたくさんある。」と経営の苦労を明かしてくれた。

社会起業部カフェチームは週に１回ミーティングを行い、季節や年中行事に合わせた新メニューを話し合う。しかし、利用する世代によって食の嗜好が異なるため、足を運んでくれるお客さんの年齢層に偏りが生じてしまう。そこで、様々な年代の人に足を運んでもらうために話し合いや工夫を重ね、地域の人たちの協力を得て、双葉郡の伝統をカフェに取り入れる活動も行っている。過去には双葉町伝統のふたばダルマ体験などのイベントを開催したり、校外に足を運び藍染体験に参加している。

このように、年代問わず楽しめるアイデアを取り入れることにより、幅広い年代に受け入れられている。

ｃａｆｅふぅの運営の様子

cafeふぅと生涯学習

「今経験しているすべてが生涯学習だと感じる。」と話してくれた生田目さん。コーヒーを淹れ、接客をする中で、お客さんに喜んでいただくためには、ニーズにどうこたえなければならないのか。マンネリ化せず、多くの人に興味を持ってもらうためにはどう工夫したらよいのか。常に相手の立場に立って考えることの大切さを学ぶことができる。

ｃａｆｅふぅは、広野町の魅力・伝統を発信する担い手となり、多くの地域住民が交流し、地域コミュニティの活性化につながる学びの場を提供できるよう日々努力している。

コーヒーを振舞う菅波さん

県内外に広く発信！

ｃａｆｅふぅでは、校内の活動だけに留まらず、校外でのイベントにも出店し、カフェや双葉郡に関する情報発信も行っている。また、双葉郡各町村の果物を使った焼き菓子を販売したりと、双葉郡を感じられる活動にも取り組んでいる。

顧問の鈴木教諭は、「今後は、福島県内だけでなく、県外にも、双葉郡そして福島の良さを感じてもらえる機会を作りたい。」と、生徒たちとの展望を話してくれた。